この状況で負けを認めてしまったらすべてが終わる！
たとえ何度イカされても負けだけは認めない…！
囮捜査官キヨウカ6
終わりなき快楽調教

痴漢囮捜査官・鈴峰杏花は
これまでいくつもの
痴漢を検挙してきた
凄腕の捜査官だった

彼女は捜査官としての
スキルや美貌にくわえて
不感症であるという
痴漢囮捜査官として
最大の利点をもっていた

しかし…
とある囮捜査の途中で
怪しい男に遭遇する

その男の不思議な力によって
不感症だったはずの鈴峰杏花の体は
眠っていた性的な快感を
呼び起こされて…

今まで感じたことのない
快楽の衝撃に戸惑わされ
何度もイカされ

痴漢囮捜査の最中に挿入されて
何も考えられなくなるほど
頭を真っ白にされながら
中出しされるという
最悪な失態を犯してしまう

それはこれまで完璧に
任務を遂行してきた
鈴峰杏花にとって
人生最大の屈辱だった

それからというもの
鈴峰杏花のカラダは
すっかりと変わってしまい
不感症だったカラダは
日を追うごとに敏感になっていった

ただ…
どんなに気持ちよくさせられても
一度もイカされなかったこと
それだけが痴漢囮捜査官としての
最後のプライドだった

ひとたび痴漢にカラダを触られると
カラダは熱く火照って力が入らなくなり
なすすべもなく犯される
そんな屈辱的な日々が1年近く続いた

しかし1年後
バスの中で
ついにあの男に遭遇

これまで1年間
痴漢され続けて
カラダに蓄積されていた
快感が一気に爆発して

ついには気持ちイイことを
認めさせながら
イカされてしまった…

一度は男に快感を認めさせられて
しまった杏花だったが
それでも痴漢囮捜査を
やめることはなかった

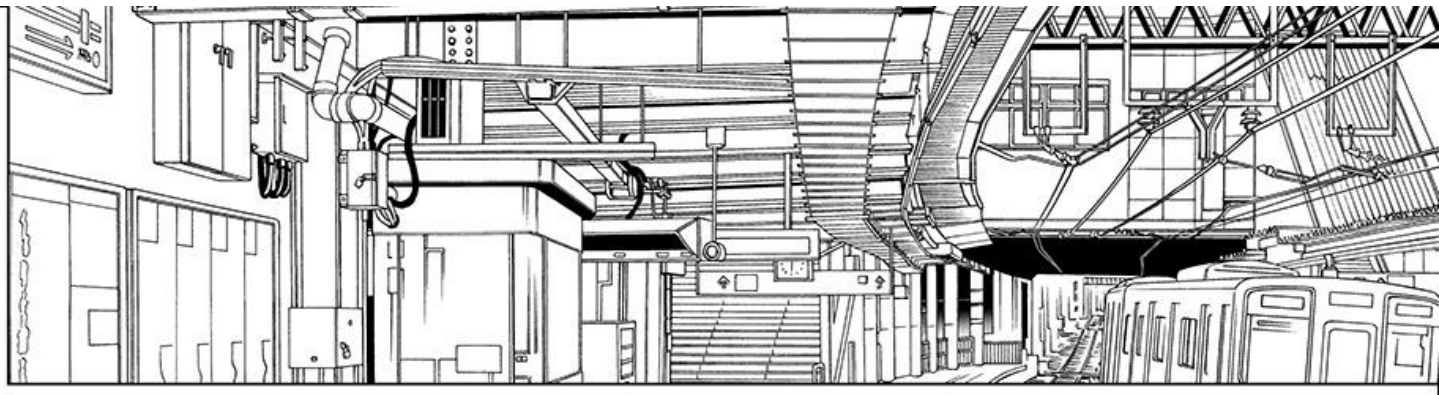
不感症を解放された反動で
普通の女性よりも
敏感でイキやすい体質に
なってしまった杏花は
囮捜査の最中に
痴漢されてカンタンに
イカされてしまう

それでも
あえて従順になったフリを
することで情報を入手して
何組かの痴漢の逮捕に
成功したのだった

そして鈴峰杏花は
私はまだ
負けてはいないと
自分に言い聞かせていた…

第6話

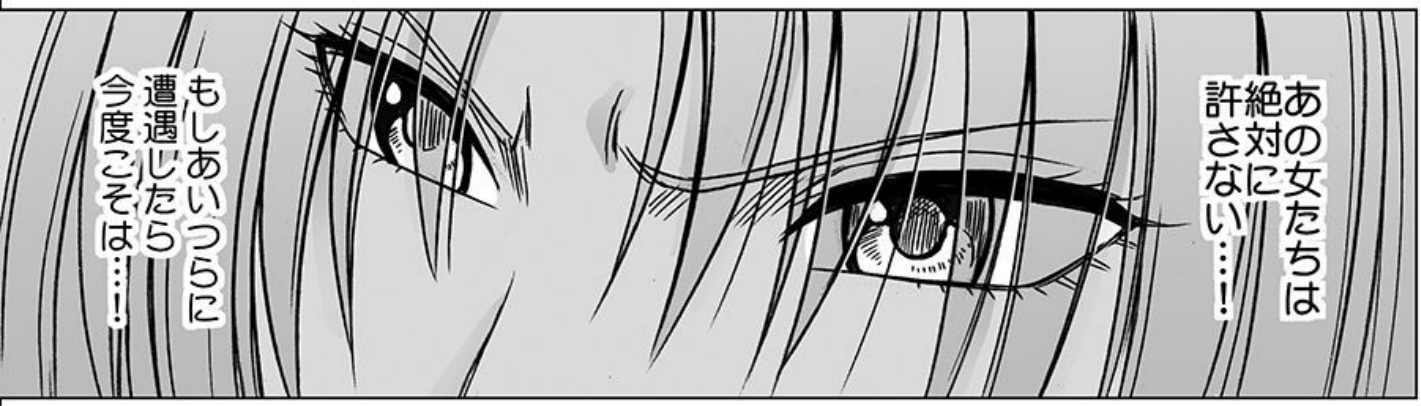
見抜かれた演技



その日は
とある女性痴漢集団の
追跡のために

某路線の
女性専用車両に
張り込んでいた

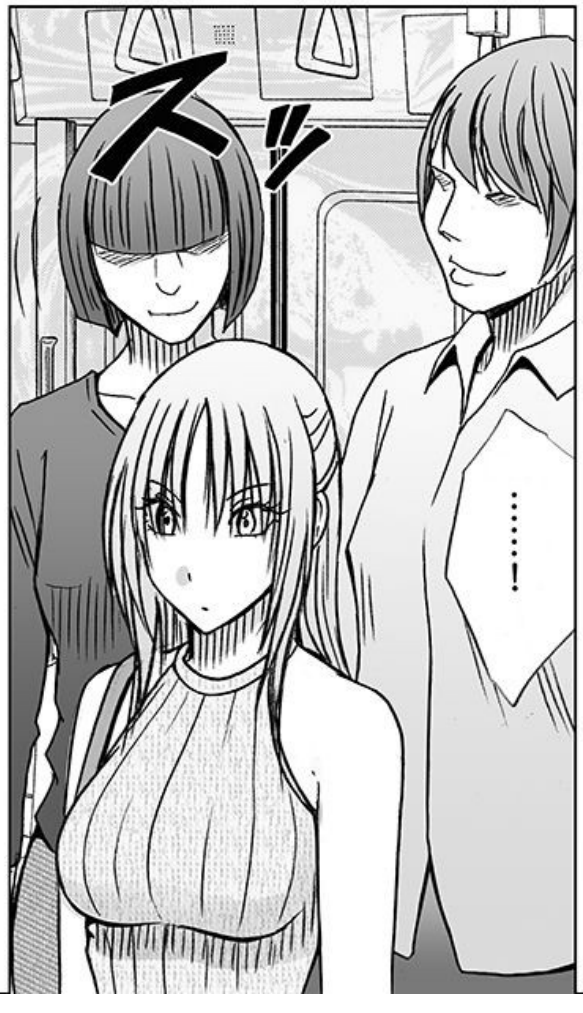
最後はイク演技を何度もさせられて…
でもつらそうイクまで終わらないんだよ？
ほら
もう一回♪イッたならちゃんと声に出してね
イッてる…
あれが今まで受けてきた痴漢被害の中でも一番屈辱的だった…


あの女たちは絶対に許さない…！
もしあいつらに遭遇したら今度こそは…！

もしかして、もう…
こいつらが…？

バッ

囲まれてる…？


ス…
……！

!!!

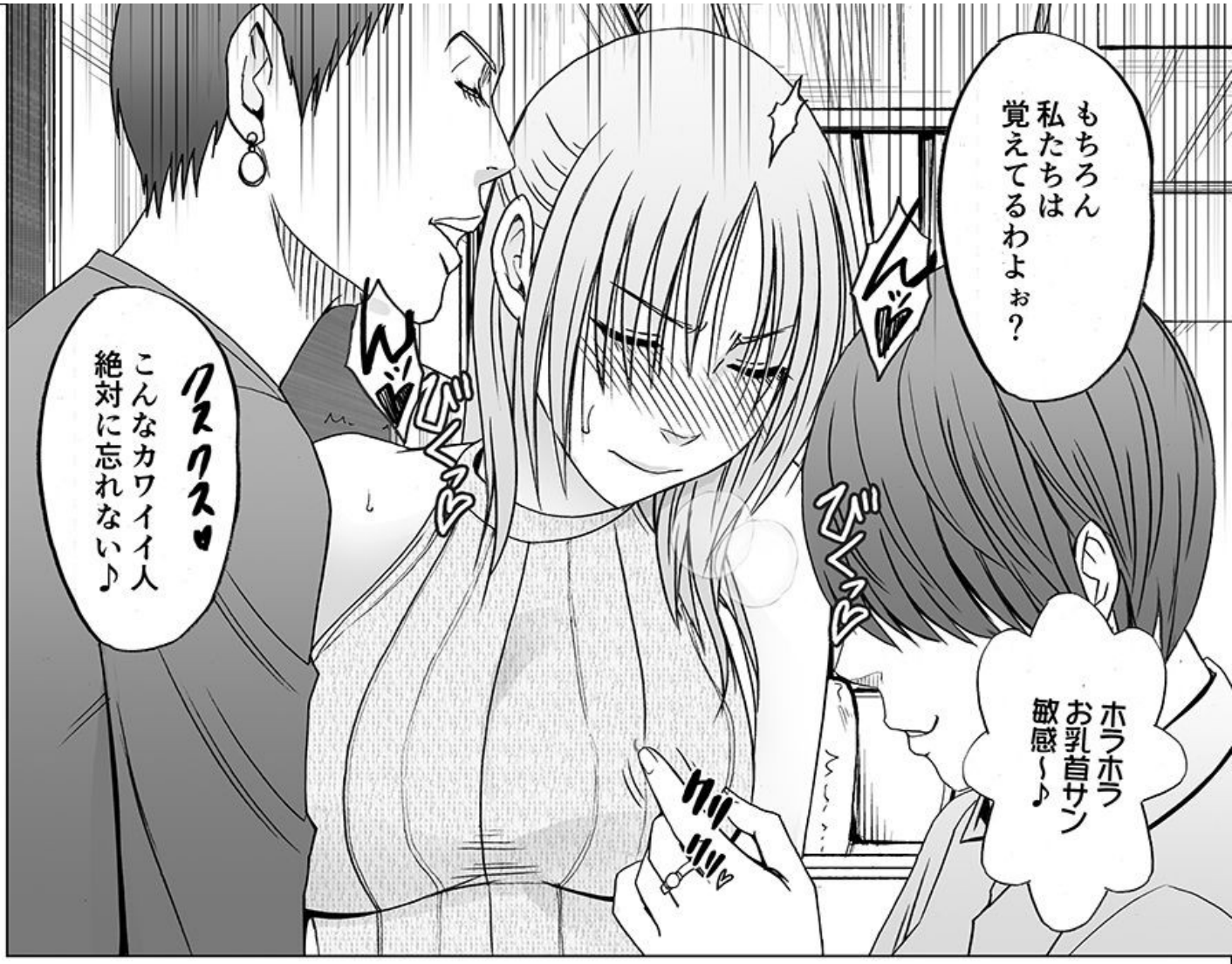
…ッ！
しまった…！

あっ！
ダメッ…！
もみもみ

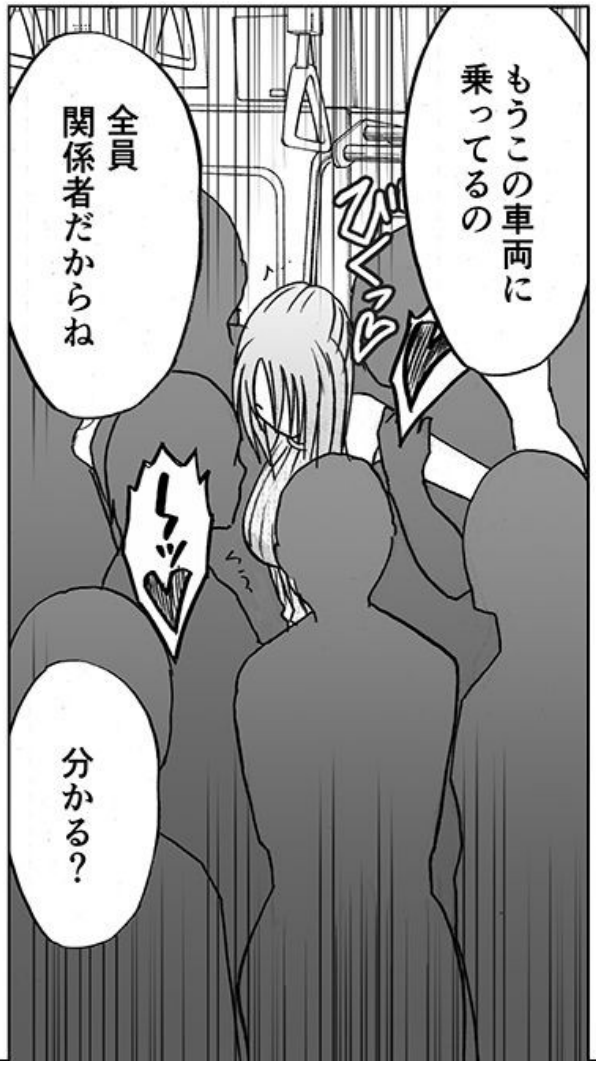
そんな…！
クリクリ♡

このままじゃまた
痴漢たちに主導権を握られてしまう…！
ビクン
びくっ♡
びくっ♡

お姉さん
お久しぶり
覚えてる
私たちのこと♪
あ～ら
相変わらず
カワイイわねぇ


もちろん
私たちは
覚えてるわよぉ？
ホラホラ
お乳首サン
敏感～♪
クスクス♥
こんなカワイイ人
絶対に忘れない♪

アハハ
言っとくけど
騒いだり
助けを呼ぼうとしても
ムダだからね？


もうこの車両に
乗ってるの
全員
関係者だからね
分かる？

ホームに
いたときから
狙われてたのは
お姉さんのほう
お姉さんは
私たちの罠に
はまったたのよ

くっ…そんな…！
こんなことって…！
これは囮捜査…
本来なら
私が罠にかける
はずなのに
私のほうが
こいつらの罠に…！？
もう
逃げられない
からね～♥
私たちが満足したら
ちゃんと帰してあげるから
おとなしくオモチャに
なりなさい♥
もみ
もみ

覚えてる
覚えてる
すっごく敏感で
感じやすいのに
絶対にイカなかった
女の子よねぇ
すっごく
悔しそうな
顔するのが
ゾクゾクするのよね♥
スッ
あ～ら
相変わらず
ビンカン♥
びくっびくっ
ﾚﾛﾚﾛ
ｸﾘｸﾘ
ｸﾘｸﾘ

感じ始めると
全然抵抗できなく
なるのが
サイコーにカワイイわぁ
んん？
悔しいの？
気持ちイイの？
もう足が
ガクガクしてる♪
今日もトコトン
遊んであげる♥
ペロ

くっ…ダメだ…！
もう…
一度
こうなってしまっては
ぴくっ
ビクッ
ヌル♡
ヌル♡
ヌル♡
ヌル♡
今の私では
はっ
どうすることも…！
ビクビクビクッ
ペロ
ペロ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

ブルブル
ブルブル
くちゅ
くちゅ

はぁっ
はぁっ
あれ？
もしかして
今あなた…
イッちゃった？
はぁっ
はぁっ
あれあれ？
どうしちゃった
の～？
前回は
あんなにイクのは
ガマンしてたのに
乳首を
ちょっと責めただけで
イッちゃうなんて…
もしかして
イキやすく
なっちゃった？
前よりも
イキやすい体質に
なっちゃったの？
ウフフ♥
じゃあ
メチャクチャ
イカせて
あげようか

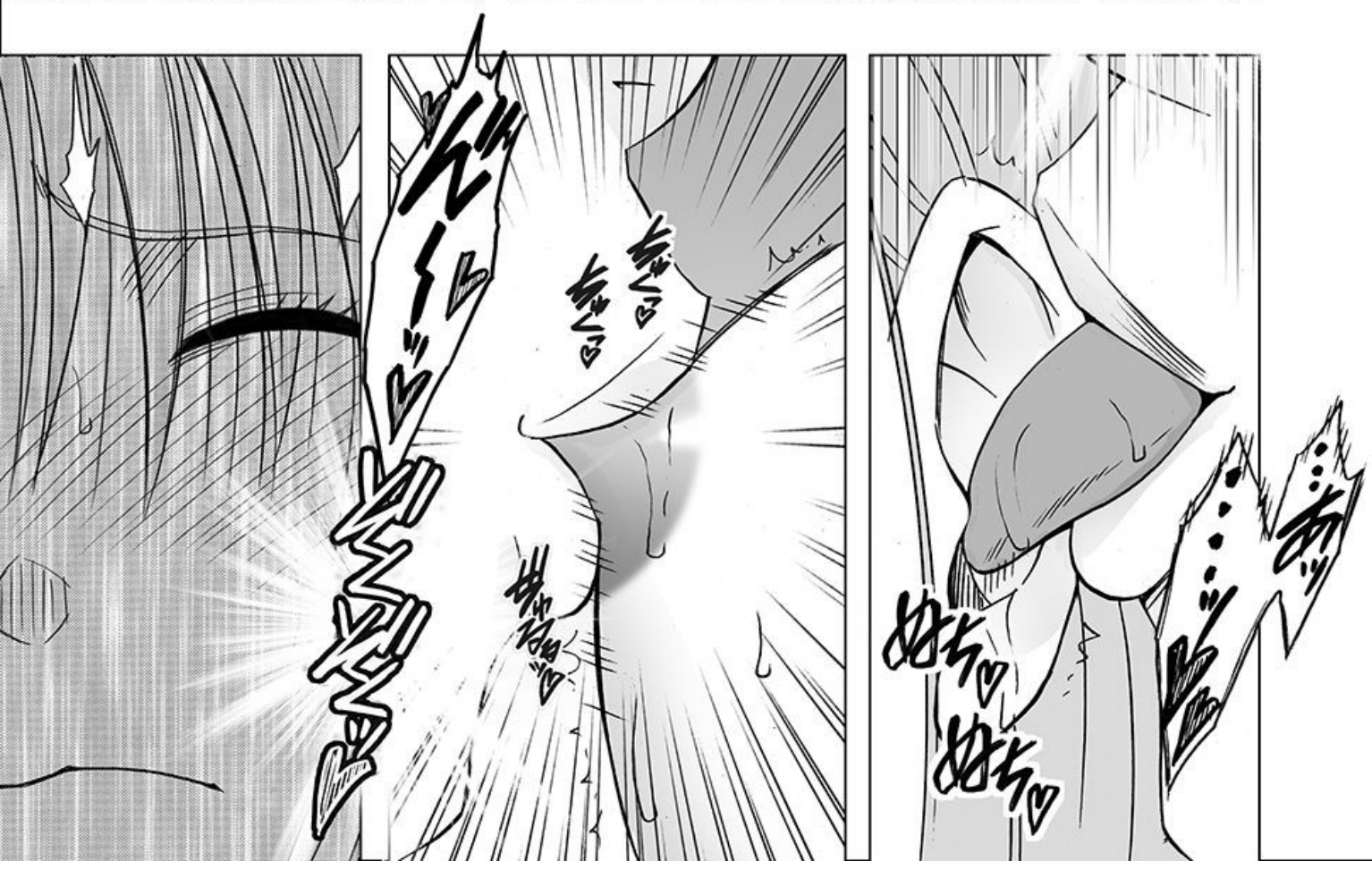
媚薬なんか
使う必要
ないのかも
しれないけど
せっかく
使ってあげる♪
……!!
ドク
ドク
は〜い
コレで
くちゅ
もっともっと
ヤバい感じに
なっちゃうわよ?
ヒクッ

このクスリはまずい！
まずい！
やっ！
ただでさえイキやすくなってるのに！
クスリまで使われたりしたら……！

一番
弱いトコを
いじってあげる
ヤッ!
またかわいい
イキ顔を見せてね
おねーさん♥
あっ♥
もう…
止められない!
イク…!

ビクッ♡
ビクッ♡
ヒィ
ヒィ
ビクッ♡
ビクッ♡

おねーさん
かわいすぎ～♥
本当に…
～～…
快感で何も出来なくなる！



あ
ヤバ～い
またイッちゃった？
はぁっ
はぁっ
はぁっ
カワイイ～♥
もう
ダメだった
ホント
イキやすくなってる
のねぇ
ニヤ
ハメ
ハメ

この閉鎖された
空間で
まわりは全員が
敵で
しかも
私のカラダ自体も

私の意志に反して
淫らな反応をする
だけで
びくっ
びくっ
何もしてないのに
カラダがビクビク
してるわよ？

一時間で
何度もイカされ
頭を真っ白にされて
すべてを諦めそうに
なるのを
何とかこらえるだけで
必死だった
ほらほら
コレもキモチイイ
でしょお？
びくっ
びくっ
ほあ
ヤッ！
ほあ
イッてるの
バレバレ～♥
グッ
ぐりぐり♥
ブウン

今回は
服やバッグの中に
GPSなどの発信機や
センサー、記録装置など
あとで手がかりとなる
あらゆる準備をしてきたから

今日はただでは
終わらない！

また前回のように
アジトに
連れ込まれたとしても

後で必ず

こいつらを…！

そして
1時間…

とある駅に
ついたとき

スッ

……!?

アハハ

お姉さん
イキまくりだねぇ♥

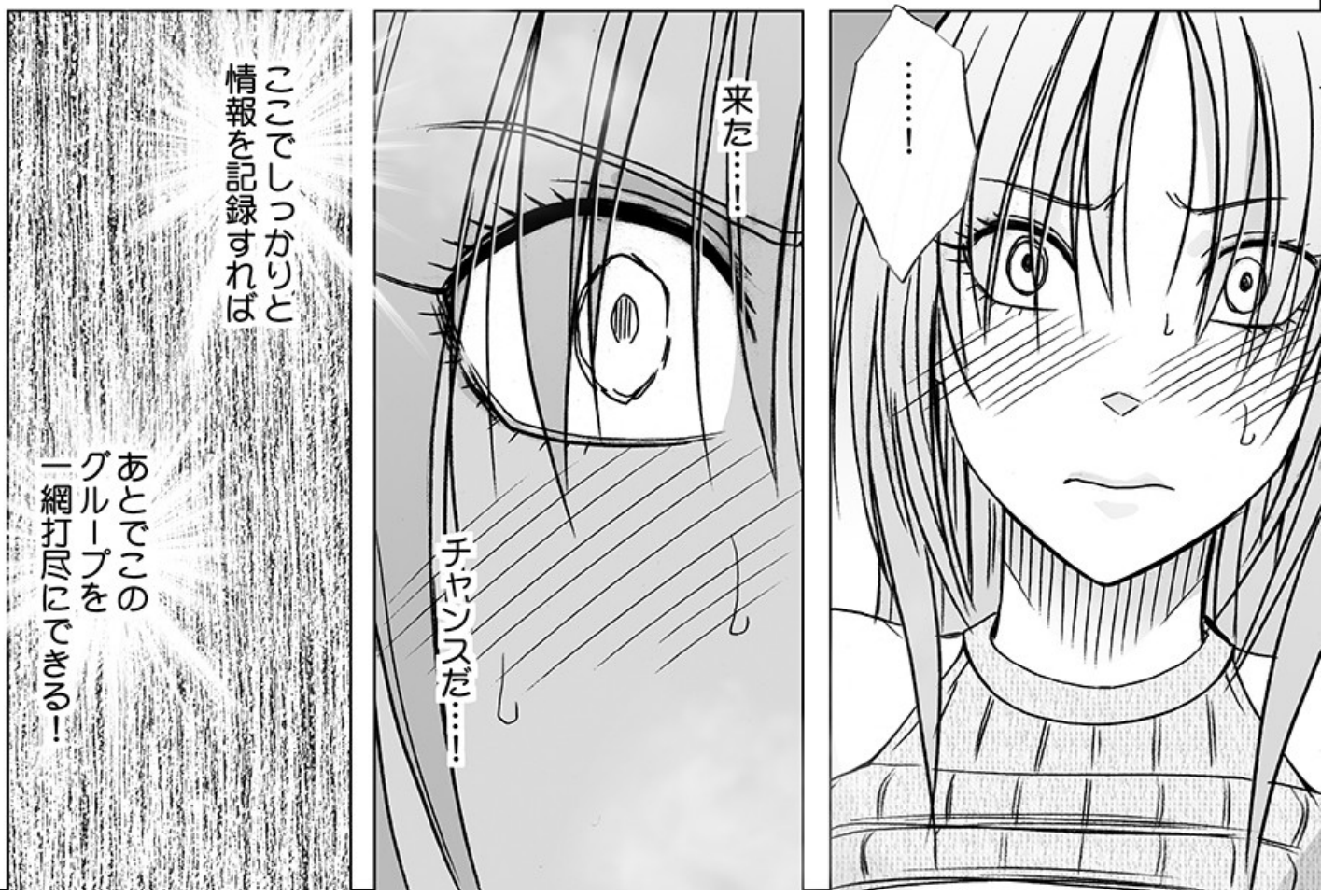
……!

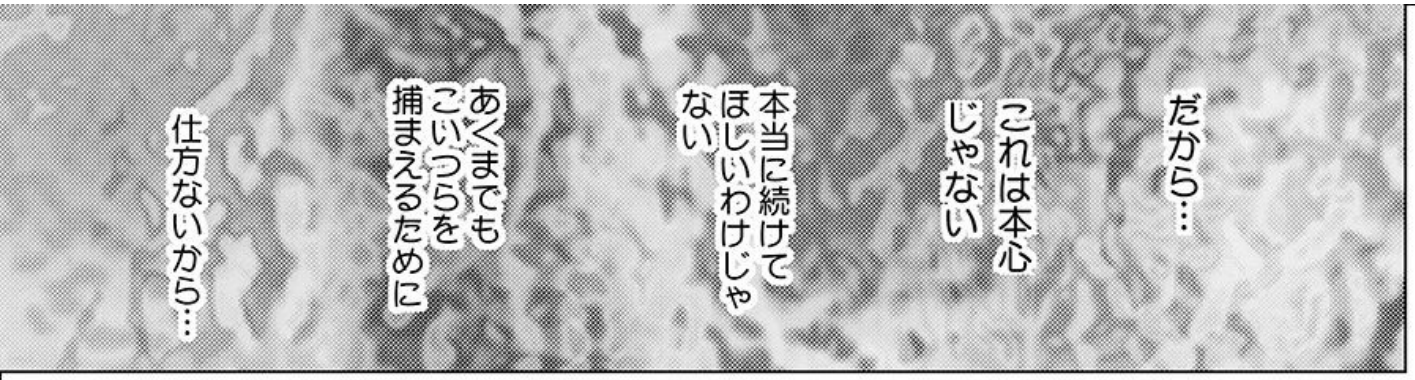
覚えてる!
たしか…

こいつは…
このグループの
リーダーの…!

すっごく
気持ちよさそうだけど
まだ満足してないって
顔してるね？

どうする？
ここだけじゃ
満足できない？
また前回みたいに
イイトコに連れて
行ってあげようか？


……！
来た……！
チャンスだ……！
ここでしっかりと
情報を記録すれば
あとでこの
グループを
一網打尽にできる！


だから…
これは本心じゃない
本当に続けてほしいわけじゃない
あくまでもこいつらを捕まえるために
仕方ないから…

ここは
おねがい…
わざと…！
もっと気持ちよく…して…

あはは
前回よりも素直になったねおねえさん

じゃあおねえさんが一番イキたいところに
連れて行ってあげる♪

……

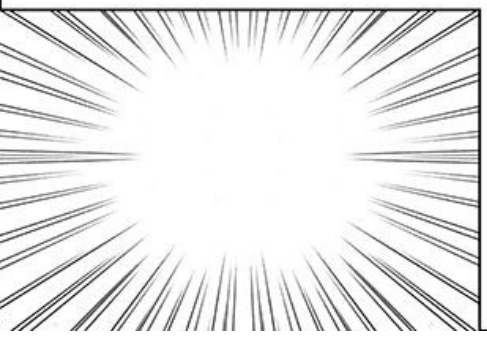
でも…
いいトコに
連れて行く
前に―
ココで
最後の1回
イカせて
あげるね♪
ハァ…
えっ…
あっ！
とびきり
イイキモチに
してあげるから♥
ゆる♥
ヤッ！
ビクッ♡

あ　そうそう
気をつけたほうが
いいよ
おねえさん
さっきまでは
この車両に乗ってるのは
全員関係者だったけど
もみもみ
びくっ
びくっ
びくっ
びくっ

さっきの駅で
普通の
お客さんも
結構乗って
きちゃった
みたいだから

あんまり
えっちな声だすと
ヘンな目で
見られちゃうよ？
びくっ
びくっ
ビッ
ビッ

そ…そんな…！
もうガマン
なんて…！

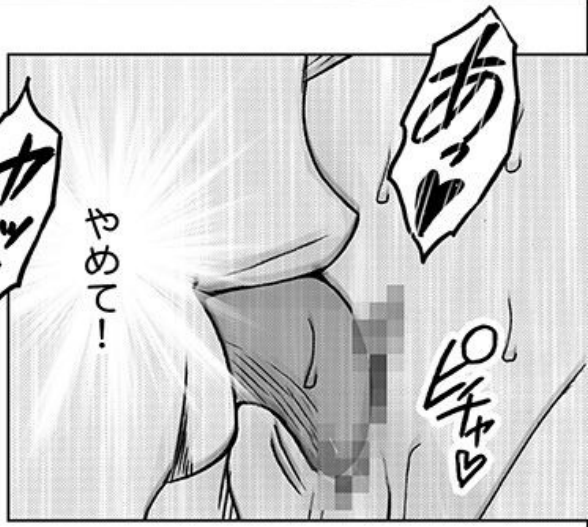


ビクビク
ビクビク
ヌル♡
ヌル♡

はぁっ♥
はぁっ♥
ふふふ…
ぷるぷる
…♥
ぎゅ♥
えっ…？
イッたのにとめてくれない！
待って！イッたばっかりなのに！
んぐ
ぴくぴく
クリクリ
しっ♥
また…！

やっぱり
おねぇさんって
とんでもない
マゾだねぇ♥
クスクス
びくっ
…ッ♥
普通のお客さんに
見られるかもって
言ったとたんに
すっごく溢れてきたよ?
あッ♥
ビクッ
もみ
もみ
ピチャ♥
ピチャ♥

いやっ！
だめッ！
イク！
イクイクッ！


あっ♡
ピチャ♡
やめて！

イクッ！
ヌル♡
イクッ！

ヤッ！
イクのが止まらない…！
頭が溶けるッ！
もうダメッ！
ダメダメダメッ！

ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ

ビンビン
ヒザ
クリ
クリ

ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ

計画は
完全に失敗して
しまった

電車の中で
激しくイカされた
私は

不覚にも
そのまま
失神させられて
しまって…

ブロロロロロ
目隠しされてるから
どこに移動しているのか
分からない
いったいどのくらい
失神してたのかも
分からないから
住所をつきとめる
作戦はすべて
台無しにされて…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ペロペロ
ペロペロ
失神してた間に
発信機を仕込んでいた
バッグや服、アクセサリ
どこに行ったのか
分からない
しかも車内でも
考えるヒマを
与えないかのように
快楽責めを続けられて
ガクッ
私は何の打開策も
見出せないまま
ただ
焦るばかりで…

結局
逮捕につながる
手がかりを
何も得られない状態で
アジトに
連れて行かれて…
ウフフ♪
ここなら
イキまくっても
いいんだよ
たっぷり
かわいがって
あげるね
びくっ
びくっ
さわ
さわ

ダメだ…！
何も出来ない！
このままじゃ
ただ犯されに来ただけ…！
フフフ
それにしても
お姉さん
すっごくイキやすく
なっちゃったね～
この前は
あんなにガマン強かったのに
何があったの～？

私は自分から望んで
こんな屈辱を
受けにきたわけじゃないんだ！
なんとしても
何らかの逮捕の手がかりを…！
フフフ…
クスクス
みんなで
気持ちいいトコ
もっと触ってあげて♪

少しでもいい!
何か…
逮捕につながるための何かを…!
そうでなければ
私はもう…
ただの…!
あぁ!
ダメだ!
またイッてしまう!

何をやってるんだ
私は！
ズンッ
ズンッ
ヌル
ヌル
ヌル
ヌル
ヒィ

はっ
はっ
あはは
またイッた～
はっ
はっ
前回のガマン強さは
どこに
いっちゃったん
だろうね～
クスクス
びくっ
んっ
びくっ
んっ
ピッ
ピッ
必死でイキ我慢する
おねえさんも
かわいかったけど
そうやって
無理矢理
イカされまくる
おねえさんも
かわいいよ♪
とくにその
イカされた後の
悔しそうな表情…
もう百回くらい
イカされてるのに
ぼあ
ぼあ
ぼあ
まだあきらめて
ないって表情…
さすがだね～

ね？
囮捜査官の
おねーさん♪
……！
ドクン
あたしたちを
捕まえようと
狙ってたのかも
しれないけど
え…？
あ…
あはは
気づいてないと
思った？
むしろ
ヌル♡
狙ってたのは
あたしのほう♪
ぐぐぐ

あれから
おねーさんのこと
調べつくしたんだよ～
だって
こんなに遊んでて
愉しい女の子って
そうはいないからね～♥
ねぇ
おねがい…
もっと…
気持ちよくして…
とか言ってたよね～
捜査官なのに…♪
そ…それはッ！
分かってる
分かってる♪
あたしたちを
油断させるための
演技だったんでしょ？
残念だったね～

でも…
本当に演技？
ドクン
もしかして
おねえさん
心のどこかに
本当に
もっともっと
キモチよく
なりたいって…
そんなふうに
思ってたりしない？
ドクン
グチュ

あッ…♡
びくっ
びくっ
びくっ
ビク
ビクッ

ビクッ
ビクッ
ビクッ
あッ
くっ…！
何なの…！
びくっ
なんでこの女…！？

私の弱いトコロを…！
カラダもココロも全部！
なんでこんなに的確に…
責めてくるの…！？

ビクッ
ビクッ
ビクッ
ムニュ
ムニュ
ビクッ

第6話
後編

負けだけは認めない

はあ
フフフ
はあ
敵に捕まってまで
気持ちよく
なりたいだなんて…
もう
しょうがないなぁ
ねぇ
このえっちな
お姉さんに
おちんちん
入れてあげて
えっ！
ズ!!!
……！
バ!!!
いやっ！
……
……

ドキッ
!!!
グイッ
ヌルッ
いやぁッ！
ヌル♡

ダメ
ダメ
ヴィィィ
ヴィィィ

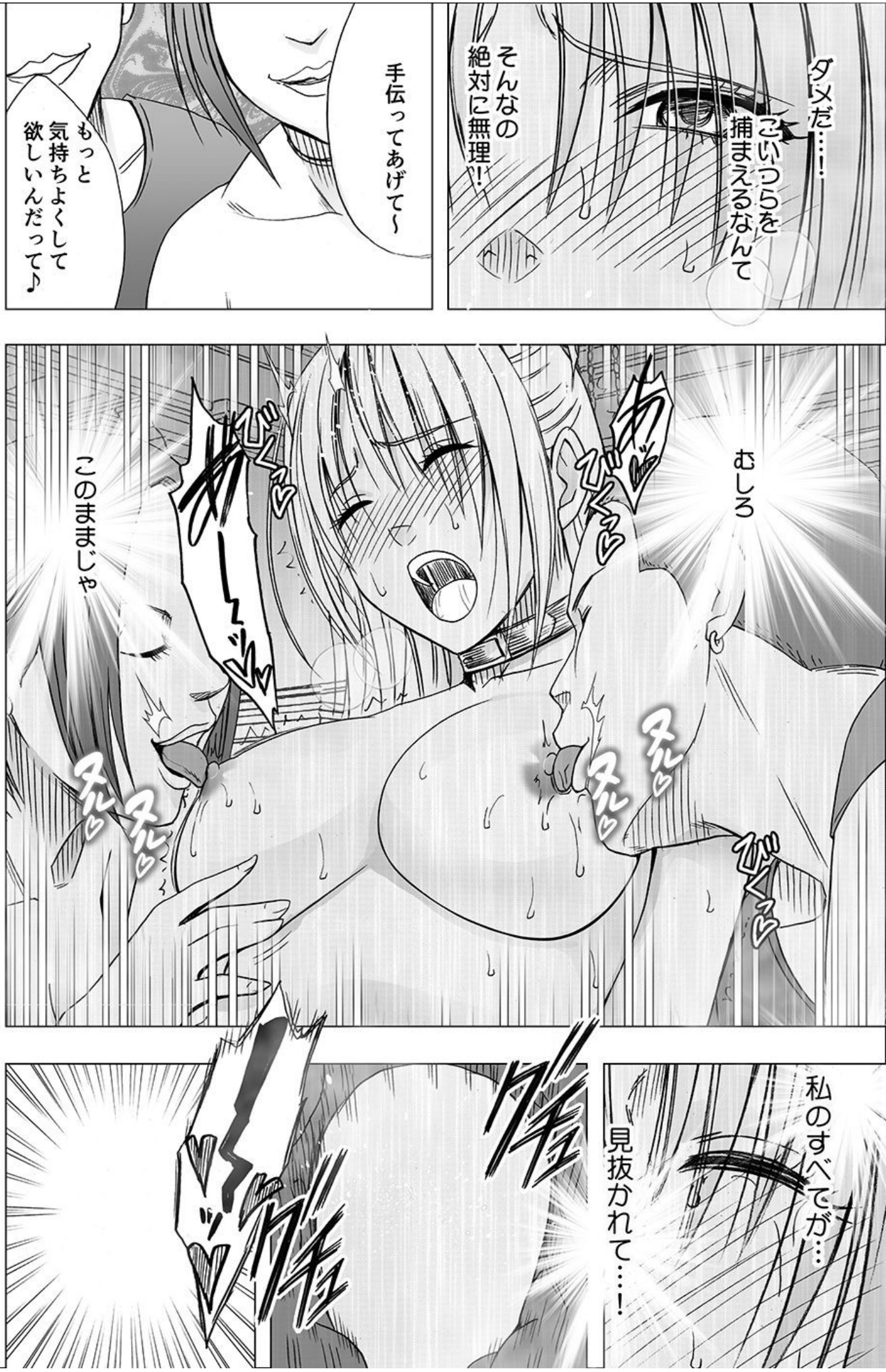
あはは
おねえさん
カラダの反応が
分かりやすいねぇ
どう
そいつの
おちんちん
すごくおっきくて
硬いでしょ？
こんなの
味わったこと
ないでしょ？
ね？

しかも
その男って
特殊な体質で
射精しても
全然萎えたり
しないから
お姉さんのこと
すっごく
キモチよくさせて
あげられると
思うよ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

お姉さんって
捜査官の中でも
痴漢の囮捜査が
得意な捜査官
なんだよね？
何度も
危険な目に
あっているうちに
だんだん
カラダが求めるように
なっちゃった？
だから
わざと
痴漢多発地帯に
足を運んでる？
ねぇ
どうなの？
えっちな
おねえさん♪
違う…！
違う！
そんなことは絶対に…！

私はそんな女じゃないのに…！

はぁっ♥
はぁっ♥
気持ちイイ？
それとも
こんなんじゃ
ダメ？
もっともっと
気持ちよく
なりたい？
びくっ
びくっ
ビッビッ
ビッビッ
びくっ
大丈夫
まだまだ
終わりじゃないから
これは
お姉さんの
望みどおりの展開♪
痴漢たちに捕まって
Hなことを
されたかったんだ
もんね
グチュ♥
グチュ♥


ダメだ…！
こいつらを
捕まえるなんて
そんなの
絶対に無理!!
手伝ってあげて～
もっと
気持ちよくして
欲しいんだって♪
むしろ
このままじゃ
ヌル♡
ヌル♡
ヌル♡
びくっ♡
びくっ♡
私のすべてが…
見抜かれて…！
ガチュ
ガチュ

ぢゅぢゅぢゅ
ぢゅぢゅぢゅ
ぢゅぢゅぢゅ

その後も
何時間も
性的拷問は続いた

失神させられ
ムリヤリ起こされては
またイカされて
失神させられる

これまでの
いろいろな経験で
性感帯が開発されて
しまって

快感に対する
抵抗力がまるで
なくなってしまっていた
私のカラダは

もう何度も
負けを認めそうに
なってしまって…

認めちゃダメ！
この状況で
負けを認めたら
終わる…！
たとえ
何度イカされても
たとえ何度
失神しようとも
負けだけは
認めないッ！

ぶるぶる
ぶるぶる
あっ♡
ぬるぬる
ちゅぱちゅぱ
じゅるっ
じゅるっ
はぁはぁ

ほあ
ほあ
ほあ
ギシギシ
も…もう
許してくれ…
ほあ
びくっ♡
びくっ♡
んっ♡
もみ
もみ
もみ
もみ
許してくれって？
何のことかな～？
クス…クス
こんな気持ちよさそうな声でイッといて…
もっと気持ちよくしてくれの間違いでしょ？
クス…クス
ね？おねーさん♥
スル♡
スル♡

ビクッ
ビクビク
ぬりゅんっ
ぬりゅんっ

どうしよっかな～
クスクス
ほあ
ほあ
ほあ
あたしなら
もっともっと
気持ちよくして
あげることも
できるけど…

その前に
あたしたちを
捕まえようと
したことを
お仕置き
しなくちゃね～♪